## 平成23年度 事務事業評価表(平成22年度分に係る報告)

評価対象事務	事業名	米内浄水場等運転·管理業務事業	事業コート゛	1259			
	所属名	上下水道局 米内浄水場			担当係名		
担当課等	課長名	上下水道局 浄水課長	担当者名	上下水; 場	道局 米内浄水	電話番号	6900

### 1. 事務事業の基本情報

		## <b>#</b> ###	LL 375 6. days at 146 516	コード	+4- 55-		コード			
		施策の柱	快適な都市機能		施策	いつでも信頼される上水道事業の推進	5			
総	総合計画体系	基本事業	安定給水の確保	コード	· 関連予算 費目名	水道事業会計 1款01項10目 修繕費(019-10 水道事業会計 1款01項10目 動力費(020-10 水道事業会計 1款01項10目 薬品費(022-10				
		特記事項								
	事業期間	○ 単年度	● 単年度繰返 □ 期間	限定複数	年度	⇒ (開始年度 昭和9年度~)				
	事務事業の概要	河川から取 施設の維持	水した原水を,水道法の水質基準に適合する。 管理	ように浄オ	く処理し,水道	利用者に対して安定給水を目的とした適切な	運転及び			
	根拠法令等	水道法								
ı	- の主な主要も明わしもと、ルコル・ストン・タグ・ロルント・ストン									

この事務事業を開始したきっかけ(いつ頃どんな経緯で開始されたのか)

市政の発展に伴い、地下水の汚染から上水道の必要性が高まり、計画給水人口50,000人、給水量6,300m 3/日で昭和9年12月通水した。

この事務事業に対して関係者(市民, 議会, 事業対象者, 利害関係等)からどのような意見・要望が寄せられているか

市議会や水道事業経営審議会において、安全でおいしい水を安定供給に努めるようにと、施設の適正な維持・修繕及び危機管理対策をしっかりするようにとの意見がある。

事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令)はどう変化したか。今後の見通しはどうか

将来にわたり、水道水源の良好な水質を保持していくことを目的に、盛岡市水道水源保護条例が平成14年3月し、同年10月1日から施行された。水道法の一部改正により、水道事業の第三者への業務委託の制度化などが平成14年4月から可能となった。水道により供給される水に関する新しい水質基準を定める「水質基準に関する省令」が平成15年5月に交付され、平成16年4月から施行された。平成19年3月にクリプトスポリジュウム等対策指針が示され、その対応に努めている。使用者の節水意識の向上と大口需要者の地下水利用への転換及び人口の減少等により給水量が減少していることから、老朽化が進行してきている施設や設備の更新が遅れ気味である。盛岡市行財政構造改革において平成18年4月から沢田浄水場の運転管理業務の一部について委託(夜間)が開始され、平成21年4月から委託範囲が土・日祝日の昼間まで拡大された。平成22年4月から玉山区の2浄水場(生出、刈屋)の維持管理が米内浄水場に統合された。平成23年4月から米内浄水場の運転管理業務の一部について委託(夜間)を開始した。

## 2. 事務事業の実施状況(Do)

①対象 (誰を, 何を対象	〇净水処理施設等 〇原水	⇒	②対象指標	A. 施設数	単 位	箇所
としているのか)			(対象の大きさを 示す指標)	B. 原水の取水量	単位	m3
				C.	単 位	
③手段 (事務事業の内	22年度実績(22年度に行った主な活動) ・原水を水道法の水質基準に適合するように浄水処理	⇒	④活動指標	A. 施設異常災害時等の職員の緊急出動回数	単 位	回
容, やり方, 手順)	・原水を水道法の水質基準に適合するように浄水処理 し、水道使用者に安定的に供給した。 ・浄水施設等を常時良好な状態に保つため、点検整備を		(事務事業の活動 量を示す指標)	B. 浄水量	単 位	m3
	行った。 ・浄水処理過程で発生する汚泥は、法律に基づき処理した。			C. 汚泥処理量	単 位	m3
	23年度計画(23年度に計画している主な活動)					
	22年度と同様に実施					
⑤意図	・浄水処理施設等は、24時間常に正常運転可能な状態 にする。	⇒	⑥成果指標	A. 施設の正常稼動(減断水無し)率=(1-減断水日数/年度の日数)×100	単 位	%
(この事業により 対象をどのように 変えるのか)	・原水は、浄水施設等により水道法の水質基準等に適合した水道水にし、水道を開着に安定的に供給を図り、		(意図の達成度を 示す指標)	【指標の性格:○ 上げる ○ 下げる ● 維持する】		
	発生する汚泥は,環境に影響を与えないように処理する。			B. 配水量 【指標の性格:○ 上げる ○ 下げる ● 維持する】	単 位	m3
				C. 汚泥処理率=(汚泥処理量/原水の取水量)×100 【指標の性格:○ 上げる ○ 下げる ● 維持する】	単 位	%
⑦結果 (上位基本事業 の意図:上位の 基本事業にどの ように貢献する か)	安全でおいしい水が安定供給される	⇒	<ul><li>⑧上位成果 指標 (上位基本事業の 成果指標)</li></ul>	有効率(単位:%) 耐震化率(単位:%) 残留塩素(単位:mg/l)		

## 2. 事務事業の実施状況(続き)

⑨事務事業の各種指標の実績及び目標値

	サネの合性的係の大根及の自保値								
区分	指標名	単位	20 年度実績	21 年度実績	22 年度計画	22 年度実績	23 年度計画	24 年度計画	目標年度 目標値
対象 指標A	施設数	箇所	5	5	5	5	5	5	26 年度 5
対象 指標B	原水の取水量	m3	12,614,400	12,614,400	12,614,400	12,614,400	12,614,400	12,614,400	26 年度 12,614,400
対象 指標C									年度
活動 指標A	施設異常災害時等の職員の緊急出動回数	回	1	2	2	2	2	2	26 年度 2
活動 指標B	浄水量	m3	7,136,289	7,070,251	12,291,375	7,146,189	12,291,375	12,291,375	26 年度 12,291,375
活動 指標C	汚泥処理量	m3	2,159.1	1,837.1	1,600	2075.5	1,600	1,600	26 年度 1,600
成果 指標A	施設の正常稼動(減断水無し)率=(1-減断水日数/年度の日数)×100	%	100	100	100	99	100	100	26 年度 100
成果 指標B	配水量	m3	7,036,644	6,987,781	11,844,250	6,924,461	11,844,250	11,844,250	26 年度 11,844,250
成果 指標C	汚泥処理率=(汚泥処理量/原水の取水量)×100	%	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	26 年度 0.01

⑩事務事業に係る事業費

区分	指標名	単位	20 年度実績	21 年度実績	22 年度計画	22 年度実績	23 年度計画	24 年度計画	****
事業費	A	千円	59,616	54,522	58,035	53,684	92,435	92,435	****
財源	<b>4a</b>	千円							****
内訳	⑤県	千円							****
	⑥地方債	千円							****
	⑦一般財源	千円	0	0	0	0	0	0	****
	⑧その他	千円	59,616	54,522	58,035	53,684	92,435	92,435	****
	合 計(④~8) (=A)	千円	59,616	54,522	58,035	53,684	92,435	92,435	****
	延べ業務時間数	時間	23,592	23,592	25,558	25,558	17,694	17,694	****
耶	戦員人件費 (B) (臨時職員賃金は, 事務費に含む)	千円	94,368	94,368	102,232	102,232	70,776	70,776	****
	トータルコスト (A) + (B)	千円	153,984	148,890	160,267	155,916	163,211	163,211	****

# 3. 事務事業の評価(See)

必要性評価	①施策体系との整合性 この事務事業の意図は、結果(政策体系)に結びついていますか?	<ul><li>見直す余地がある</li><li>➡ 4. 事務事業の改革案へ</li></ul>
評価		理由:水道施設が24時間正常に稼動することは、水道水を使用者に必要なときに必要な分だけ使用してもらえることにつながる。また,浄水処理によって発生した汚泥は、水環境に影響を与えないように処理することから安全でおいしい水を安定的に供給することに結びつく。
	②公共関与の妥当性 市がやるべき事業ですか? 税金を使って達成する目的ですか?	● 見直す余地がある  ⇒ 4. 事務事業の改革案へ  妥当である
		<b>└「妥当」とする理由:</b>
		理由:上水道はライフラインを担う重要施設であり、また、水道使用者から料金をいただき運営している。水道事業者の責任の範囲において経営の効率化に向けて業務委託を進める必要がある。
	<ul><li>③対象の妥当性 対象の設定は現状のままでいいですか? 広げられませんか? また絞らなくてよいですか?</li></ul>	<ul><li>拡大または絞る余地がある</li><li>現状で妥当である</li><li>⇒ 4. 事務事業の改革案へ</li></ul>
		□「妥当」とする理由: 法定事務である 内部管理事務である その他
		理由:盛岡市は、6浄水場から標高や位地により各浄水場の給水区域を設定している。また、原水は、水道事業認可及び水利権の許可に基づき取水していることから現状のままで妥当である。
	④意図の妥当性 意図(何を狙っているのか)を絞ったり拡大したりして、成果向上できませんか?	<ul><li>     並</li></ul>
		└「妥当」とする理由: ○ 法定事務である ○ その他
		理由:浄水技術を向上することで,施設の故障や事故が回避され、安全で安定な水道水を供給できる。また、適正な運転管理を追求することで、浄水処理により発生する汚泥の量を縮減することが可能となる。
有効性評価	⑤成果の向上余地 成果がもっと向上する余地はありますか?	● 向上余地がある ○ 向上余地がない ⇒ 4. 事務事業の改革案へ
に評価		その内容:技術の継承と職員個々の技術力を高めることが、浄水場運転・管理業務全体のレベルアップにつながり、それが結果として安定給水につながる。
	⑥廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合、施策の成果に及ぼす影響はありますか?	<ul><li>● 影響がない</li><li>● 影響がある</li><li>⇒ 4. 事務事業の改革案へ</li></ul>
	⑦類似事務事業との関係	その内容:浄水場は、ライフラインを担う重要施設であるため、この事業は休止・廃止することができない。
	√類似事務事業(国,県,市の内部,民間)はありませんか?	● 類似事業がある ○ 類似事業がない
		事業名:中屋敷浄水場運転・管理業務事業,沢田浄水場運転・管理業務事業,新庄浄水場運転・管理業務事業
		※類似事業がある場合、その事務事業と統廃合又は連携を図ることにより成果向上はできませんか? <ul><li>統廃合・連携検討</li><li>できる</li><li>できない</li></ul>
		その内容:盛岡市の各浄水場は、安全で安定的に供給できるように、水源・取水量を水利権の許可と水道事業の認可を受けている。浄水場を統合するには大規模な施設整備を計画した許認可が必要である。しかし、技術情報を共有し、各浄水場間の支援協力体制を構築することで効率的に運営できる。
効率性評	⑧事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を節減できる余地はありませんか?	<ul><li>● 削減余地がある</li><li>○ 削減できない</li></ul> ⇒ 4. 事務事業の改革案へ
猫		その内容:配水量は夏までは増加し、秋以降減少することから、配水量を予測し、配水池の容量を有効利用した浄水処理によって、動力設備の電力使用量の削減を図ることができる。
	⑨人件費の削減余地 成果を下げずに人件費(延べ業務時間数)を削減する余地はありますか?	● 削減余地がある ○ 削減できない
		その内容:機械・計装設備等を適正に維持保全することにより、土・日祝日の昼間の運転管理に係る人件費を委託化により削減することができる。
公平性評価	⑩受益機会の適正化余地 受益機会の適正化余地はありますか?	<ul><li>適正化余地がある</li><li>● 公平・公正である</li><li>特定の受益者はいない</li></ul>
恤		□
	①費用負担の適正化余地 受益者の費用負担の適正化余地はありますか?	適正化余地がある

理由:水道事業は、水道利用者による受益負担が原則となっており、いつでも安全でおいしい水を公平に供給し、その費用は条例により水道料金として決められていることから、公平・公正である。

## 4. 事務事業の改革案(Plan)

①改善の方向性(この事務事業をどう変えていくか、廃止や拡充、事業方式改善など)
※複数ある場合は、代替案その1、代替案その2とすること
施設の老朽化による修繕費の増加が見込まれることから、計画的に自動化や高度化の施設整備を行うものとするが、今後、水需要が低迷し料金収入の増大が見込めないことから、当面は維持保全を充実し施設の延命に努める。維持保全に係る技術を高めるために職員による技術情報の交換や研修により意識を高めてゆく。維持保全業務に集中するため、併せて経費の削減を見込み、運転管理の委託化を進める。

②改革、改善を実現していく際に想定される問題点は何ですか? それをどう克服していきますか? (関連部門や全庁的な調整の必要性、トップへの要望も含む)

委託化に際し、非常時においても安全で安定的に給水できる体制が構築されている必要がある。委託者に際しては年間を通した指導体制をとり、委託拡大に向けた施 設整備の促進を図る。

#### 5 課長音目

	(1)一次評価者として	の評価結果		7	(2)全体総括(振り返り,反省点)
一 次 評 価	① 必要性	妥当	○ 見直し余地あり	4	浄水場の施設整備を効率的に進めるとともに、職員の技術継承、資質の向上に努めた。その結果、大きな事故もな安全でおいしい水
価	② 有効性 :	妥当	○ 見直し余地あり	7	を安定的に供給することができた。また、運転管理業務の委託化 への準備が整った。
	③ 効率性 :	妥当	○ 見直し余地あり		
	<ul><li>④ 公平性</li><li>:</li></ul>	妥当	○ 見直し余地あり		
Γ.	(3)今後の事務の方向	1性(改革改善案	(1)		
今後の方向性と改革改善案	□ 終了 ☑ 継続□ 廃止 □ 休止	$- \downarrow \rightarrow $	<ul><li> 現状維持(従来通りで特に改革</li><li> 改革改善を行う</li><li> 事業統廃合・連携</li></ul>	改善	をしない)
改革改善記					
案	方向付けの理由と改	ズ革改善の内容			
			かに職員による技術情報の交換やなため、更なる経費の節減に努めるた		こより意識を高めてゆく。 :, 平日日勤以外の運転管理の委託化が可能となるよう検討を進め